

令和7年度

青森県保育連合会



給食・食育研修会

ハイブリッド開催(会場受講+Web配信)

「野口先生の講演が聞きたい!!」のアンコール企画

昨年度 大好評でした野口孝則先生を再びお招きします。
給食関係者だけでなく、保育者にとっても「保育における食育とは何か」ひいては「保育とは何か」を考えさせられる研修です!!

日時

6/30(月) 10:20~15:00

会場

ホテル青森3F 「孔雀の間」



内容

<「Well-Beingと保育の質向上」シリーズ>

「well-beingと保育の質向上

~子どものwell-beingを高める食育実践~」(仮)

国立大学法人上越教育大学大学院
学校教育研究科 臨床・健康教育学系
教授 野口 孝則 氏



参加費

<会員>

現地参加5,000円/人(昼食込)
オンライン 5,000円/人

<非会員>

現地参加15,000円/人(昼食込)
オンライン 15,000円/人



※詳細は開催要項をご覧ください。

申込：青森県保育連合会ホームページ「研修案内」掲載の
申込フォームよりお申込みください。

締切：令和7年6月19日(木)

問合せ先：一般社団法人青森県保育連合会事務局

TEL：017-734-2350 FAX：017-777-8698

HP：http://aomoriken-hoikurengoukai.jp/



<講師のご紹介>

野口 孝則(のぐち たかのり)

【所属】 上越教育大学大学院学校教育研究科
発達支援・心理臨床教育学系 教授
健康教育研究センター センター長



職 歴

↑昨年度の様子

2001年	理化学研究所 脳科学総合研究センター 行動遺伝学チーム 博士研究員
2001年	理化学研究所 脳科学総合研究センター 基礎科学特別研究員 (医科学分野)
2003年	神戸学院大学 栄養学部 講師
2007年	福岡女子大学 人間環境学部 准教授
2010年	厚生労働省 健康局総務課生活習慣病対策室 栄養管理係長
2011年	帝塚山大学 現代生活学部 准教授
2015年	国立大学法人上越教育大学大学院 学校教育研究科 教授 (現職) 発達支援教育実践研究コース (学校ヘルスケア領域)
2019年	学長補佐 (2021年3月まで)
2020年	健康教育研究センター・センター長 (兼務・現在に至る)

近年の主な著書・共著・論文

「子どもの育ちを支える食～保育所等における「食育」の言語化～」 (全国保育士会) 2020年
「子どもと過ごす食事の時間の大切さ」 (月刊「子どもの栄養」) 2020年
「管理栄養士・栄養士を養成する教員の強化と未来の人材力を創る」 (日本栄養士会雑誌) 2021年
「ポストコロナと教育-上越教育大学の実践と考察-」 (上越教育大学出版会) 2021年
「「人間力」を育てる-上越教育大学からの提言6-」 (上越教育大学出版会) 2022年
「新・子どもの食と栄養」 (学童期の食生活, 保育における食育の意義) (教育情報出版) 2022年
「もっと身近な食育を考える」 (月刊「保育とカリキュラム」) 2023年
「特集・子どものための食育とは」 (月刊「ぜんぼきょう」巻頭特集) 2023年
「毎日の食事を中心とした食育の推進～保育のなかの食育」 (全国保育士会) 2023年, 2024年

連 載

「保育園での食育実践講座～体と心の健康・地域の食文化・災害時の対応」 (公社)全国私立保育連盟発行の月刊誌「保育通信」に2017年4月から毎月連載中
「学校における食育実践講座～データで示す食育」 全国学校給食協会発行の月刊誌「学校給食」に2019年4月から2024年3月まで5年間
「食を通して子どもの育ちを考える」 (社福)全国保育協議会発行の会報「ぜんぼきょう」に2022年4月から2023年3月まで1年間
「コロナ禍だからこそ見直すチャンス～食育計画の立て方・基本のき」 (2022年度)
「幼・保・小連携の食育をはじめよう!～進学前の親子のサポート」 (2023年度)
「野口先生の食育塾～食育をどう考え、どう学ぶ?」 (2024年度) (株)メイト発行の季刊誌「いただきます・ごちそうさま」に2022年から毎年テーマを変えて連載中

昨年度参加者の声

とても学びの多い講演でした。
こんなにメモを取ったのははじめてかもしれません。

とてもわかりやすく楽しい勉強会でした。わかっているつもりでいたことが、そうではなかったんだなと思いました。質問に答えていただいて、とてもうれしかったです。

頷きと共感が止まらず、食育の概念が覆されました

普段気になっていることや疑問に感じていたことを的確に教えていただけて今回の講習を受講することができ本当に良かったです。

とてもわかりやすく、本質的な話ばかりで目からうろこでした。多くの人に聞かせたいと思いました。

